

学校組織マネジメントで運営方針を明確にするとともに、学校の強みを全面に出し、教職員へのビジネス・コーチングで、意欲の喚起を図りながら、学校の特色ある取り組みを推進する。生徒の各種意識調査等を元に、PTA、地域企業、大学と連携を図り、学校組織マネジメントサイクルを回す。また、地域の担い手となる生徒を、学校の材を最大限に活用し、有効な組織と全職員で、就業体験、防災教育等を実施し、生徒の進路希望実現と地域貢献できる将来のスペシャリストの育成を目指す取り組みを報告する。

1 はじめに

生徒の進路希望実現と地域から信頼され、期待される学校になるように、本校の特色を活かし、多くの中学生から行きたいと思うような魅力的な学校を目指している。

2 学校の概要

昭和 14 年に新潟県立柏崎工業学校として創立し、新潟県立柏崎工業高等学校となる。平成 17 年に、4 学科のくくり募集で工業の 5 コース制を実施。中越地震、中越沖地震の震災を契機に、防災エンジニアコースが新設された。

3 目指している学校像のコンセプト

充実したキャリア教育に取り組み、希望進路実現と産業振興を担う技術者の育成を目指す。

工業高校の特色を活かした防災教育に取り組み、非常時の減災活動、災害時の救助及び復旧活動に情熱を持った人材を育成する。

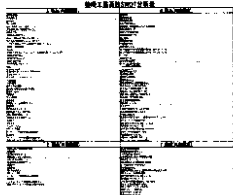
4 学校組織マネジメント

学校の最高のミッションは、生徒に生き抜く力をつけることである。それを身に付けさせるために、学校の強みを展開する。教職員には、目標を掲げ、教育活動のプロセスの中で、生徒一人一人へ適切に指導・支援し、サポートする。

(1) 分析・調査 (Marketing)

最初に、アンケート調査等^{1) 2)} から、本校の特徴を分析し、強み、弱み等を認識する。

①教職員の意識分析 (SWOT Analysis)^{4) 5)}



本校の強みは、地域からの強力なサポートである。新潟工科大学との連携事業と地域企業からのキャリア教育の協力である。また、大きな震災からの防災教育である。

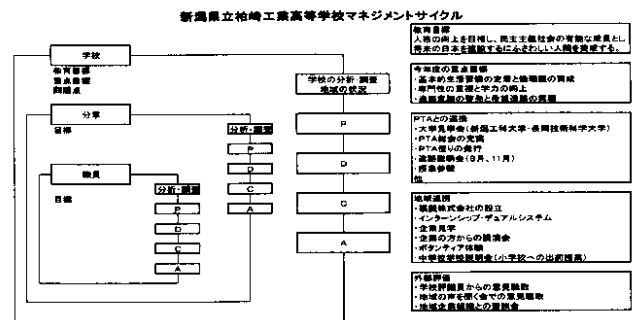
②比較 (目標校) (Bench Marking)

兵庫県立舞子高等学校の防災教育、県内の中等教育学校 (新潟県立直江津中等教育学校等) の小規模校における学校の活性化と分掌体制。

新潟県立新潟工業高等学校をはじめとする工業系高等学校等を参考にした資格取得、進路指導、就業体験等を目標にしている。

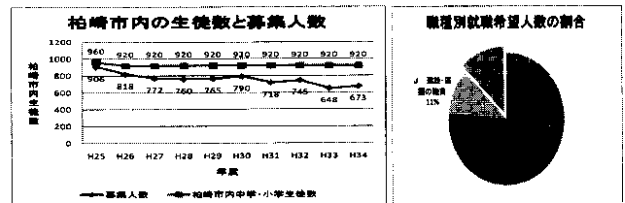
(2) マネジメントサイクル

生徒の意識調査等の各種調査を実施し、PTA、地域企業、大学と連携を図り、PDCAの学校組織マネジメントサイクルを回す。



①調査 (Marketing)・分析 (Analysis)

入学状況と生徒意識調査から、本校の環境分析を実施する。柏崎市の生徒数³⁾の変化を示す。本校の生徒意識調査から、高校進学にはその後の進路意識を持って進学してきている。²⁾



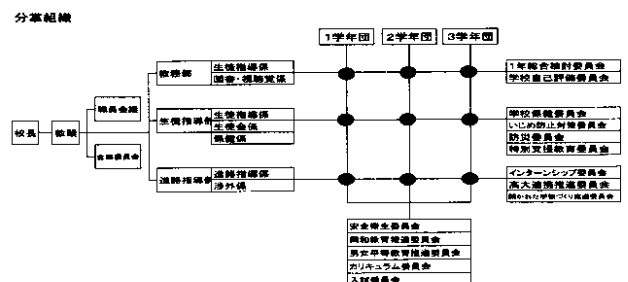
就職希望者が年々増加し、希望の職種は、地元の製造業、専門職が多く86%¹⁾である。

②具体的な数値目標 (Plan)

- *就職及び進学希望者の年度内100%内定
- *卒業まで、一つ以上の資格を取得する。
- *インターンシップ・ボランティアへ全員参加。

③学校組織の変更 (Do)

組織をピラミッド型にし、連絡の徹底と迅速な対応ができるようにし、各部長が責任を持って、係をまとめ、連携できるようにしている。



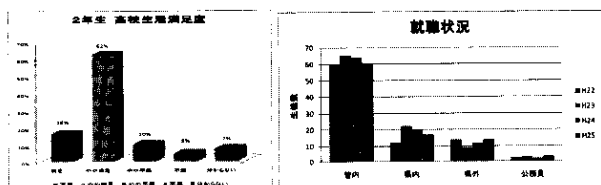
各種専門委員会は関連の部と連携し易いようにし、全ての教職員が学年団に属して指導に当たれるマトリックス組織^{4) 5)}にした。

④各種活動 (Do)

- *新潟工科大学模擬授業・出張講義
- *インターンシップ・デュアルシステム
- *企業を知る会 (参加3年全員、保護者) 他

⑤満足度調査(Customer Satisfaction) (Check)

学校生活については1年生69%満足、やや満足、2年生78%。理由は友人がたくさんいる。学校やクラスの雰囲気が良い。不満は授業がわかりにくい。この点を改善する必要がある。



⑥進路状況 (Action)

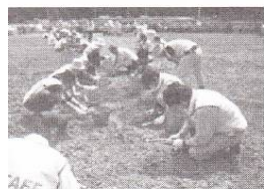
年度内に就職は100%内定している。また、定着率も高い。就職先も柏崎管内に多く、生徒の希望どおりの就職を果たしている。

⑦資格取得状況 (Action)

教育の質の保証として、資格取得を奨励し、希望進路実現に繋げている。技能士は平成24年に114人が取得した。危険物取扱者甲種にも昨年度1人合格した。

5 本校の特色ある取り組み

①防災エンジニアコース



P T A主催の被災地ボランティア活動を毎年実施している。平成25年度は、南三陸町の農業支援石拾いに参加。

防災マインドの形成に繋げている。

- ・地域との繋がりや助け合いの精神が育まれる
- ・地域の自然に感動し、恩恵に感謝し共存する
- ・一人ではない、仲間との支え合う心の形成
- ・行動し、地域や人のために貢献する心

②キャリア教育

インターンシップは、柏崎地域の64事業所の協力を得て、高校生インターンシップ等推進地域協議会を組織し2年生全員に実施している。

③大学連携

地域の大学との連携を図り、大学見学、模擬授業体験。課題研究指導等で連携している。

6 ビジネス・コーチング⁶⁾

教職員の意欲とやる気と能力を発揮してもらうために、教職員面談を実施している。そして、生徒の可能性を信じ、授業を大切に、学力向上のための学習指導に意欲的に取り組み、

生徒の進路実現に向けて、きめ細かい指導ができる教職員になってもらいたい。また、高い専門性と広い視野を持ち、指導力向上のための自己研鑽をおしまない。部活動においても、情熱を持って指導できる教職員を目指している。面談をする際には、自己申告シートを提出して、各自で自己評価をしている。全教職員に年5回以上の面談の機会を設けている。

7 取組成果 (評価)

①女子生徒の活躍と志願者の増大

新潟県化学インターハイの基本実験部門で優勝した。防災エンジニアコースの女子4人が「私達防災ガール」として、全国産業フェアで防災エンジニアコースの取り組みを発表。



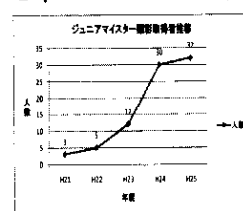
また、女子の入学者が増加し、今年度の入学者数は16名で、ここ数年で最大になった。

②職員の活性化

授業改善に努め、分かり易く、楽しい授業に向けて、ICTの活用や、グループ学習等で工夫し、授業実践される教職員が現れた。中学校への交換研修の希望者や、朝学習、読書の取り組みを実施する教職員もでてきた。

③生徒の活躍

大学と連携して、小水力発電の課題研究に取り組んでいる。また、各種資格取得数が、増加し、ジュニアマイスター顕彰数が増加した。模



擬株式会社の社長として、生徒研究費を申請し、主体的に取り組む生徒もいる。

8 まとめ

学校に活気が出てく

る。教職員とコミュニケーションが良く取れるようになり、教職員のモチベーション維持に繋がっている。地域からの関心も高まり、生徒の自信に繋がっている。奉仕の精神を身に付けた柏崎工業のブランド化^{4) 5)}を図り、地域に貢献する社会人の育成が期待できる。

参考文献>

- 1) 新潟県高等学校長協会の高校生意識調査 H25.10 実施
- 2) 高等学校教育課の H25 高等学校生活等意識調査
- 3) 柏崎市 H25 市勢概要
- 4) 青井倫一監修:通勤大学 MBA1 マネジメント通勤大学文庫総合合法
- 5) 高橋智弘著:ビジネス・マネジメントの基礎日本経営新聞社
- 6) 本間正人:図解ビジネス・コーチング入門 PHP 文庫 他